

こころの病気の臨床

求められていること、脳科学ができること

文部科学省 科学研究費助成事業

開催日 **2014.9.21(日)** 会場 **京都烏丸コンベンションホール**

Neuroscience2014 市民公開講座



定員

先着**300名**

参加無料

どなたでもご参加いただけます。

**事前参加
登録制**

オーガナイザー

村井 俊哉

京都大学大学院医学研究科 精神医学

スピーカー

船曳 康子

京都大学医学部附属病院 精神科神経科
■トピック・・・発達障害

神庭 重信

九州大学大学院医学研究院 精神病態医学分野
■トピック・・・うつ病

池田 学

熊本大学大学院 生命科学研究所 神経精神医学分野
■トピック・・・認知症

<主催>第37回日本神経科学大会

<後援>京都府、京都市、(公財)京都文化交流コンベンションビューロー

<http://www.neuroscience2014.jp/>

Neuroscience2014 市民公開講座

開催日

2014.9.21(日)

会場

京都烏丸コンベンションホール

こころの病気の臨床 求められていること、脳科学ができること

文部科学省 科学研究費助成事業

お申込方法

- WEB** <http://www.neuroscience2014.jp/>
の市民公開講座 ご案内ページよりお申込みください。
 - FAX** 075-231-6354
 - ハガキ** 〒604-8162 京都市中京区烏丸通六角下ル七観音町634
(株) コンベンションリンケージ内 Neuroscience2014 事務局宛
- ②、③の場合、氏名・住所・電話番号・参加人数や講演者へのご質問をご記入の上、ご送付ください。

定員に達し次第、受付を終了いたします。締切後にお申込みされた場合、参加不可の旨ご連絡さしあげますのでご了承ください。お申込みいただいた方には、9月中旬に参加証を送付いたしますので、**当日必ずご持参ください。**



Neuroscience2014 市民公開講座について

私たちは、人生のさまざまな時期において、健康を脅かすさまざまな「こころの病気」に直面しています。発達障害、うつ病、認知症は、そのいずれについても、その成因、病態、そして治療には、生物学的側面、心理学的側面、社会的側面が関与します。こころの病気はそのような複雑性を持っていることを踏まえながらも近年の神経科学の成果が示す到達点をお伝えいたします。

プログラム

14:00開始

14:00-14:05

■開会挨拶 (5分)

高橋 良輔 (京都大学大学院医学研究科・臨床神経学)

14:05-14:55

■演者1 ご講演 (40分) +QA (10分)

「発達障害の臨床と脳科学のこれから」

船曳 康子 (京都大学医学部附属病院 精神科神経科)

■休憩 (10分)

15:05-15:55

■演者2 ご講演 (40分) +QA (10分)

「うつ病・双極性障害とつきあうために」

神庭 重信 (九州大学大学院医学研究院 精神病態医学分野)

■休憩 (10分)

16:05-16:55

■演者3 ご講演 (40分) +QA (10分)

「認知症の臨床: 求められていること、脳科学ができること」

池田 学 (熊本大学大学院 生命科学研究部 神経精神医学分野)

■閉会挨拶 (5分)

村井 俊哉 (京都大学大学院医学研究科 精神医学)

17:00終了

船曳 康子

(京都大学医学部附属病院 精神科神経科)

1996年京都大学医学部医学科卒業後、同老年科、京都市立病院にて研修医として勤務し、1999年同大学院に入学。認知症の臨床・研究を行った。2000年からはカリフォルニア工科大へ留学し、言語発達の臨界期の研究を行い、学位取得、のちに包括脳での受賞に至る。2003年に帰国し、同精神科神経科にて、特に児童精神、自閉症の分野の臨床・研究を進め、日本学術振興会特別研究員を経て、2009年より現職。厚生労働科学研究費の代表者として、発達障害者の要支援度評価法を開発し、2012年には日本児童青年精神医学会の研究奨励賞の受賞に至った。その他、国際精神衛生スケールCBCLの日本語版をとりまとめ、また、工学、数学、教育など他分野と共同で、社会のニーズに合わせて、臨床とともに新たな研究に取り組んでいる。



神庭 重信

(九州大学大学院医学研究院 精神病態医学分野)

日本うつ病学会の理事長を務める、うつ病治療のオピニオンリーダー。精神医学を、生物学的、心理学的、社会的な次元に加え、実存的・哲学的問題も関与する、極めて幅広い領域と理解し、多様なアプローチで研究と治療に取り組んでいる。教鞭をとる九州大学では、「心を知り、脳を知り、人間とその社会を理解できる」優秀な精神科医の育成に尽力中。多数の著書・エッセイを通じて、社会への発信も積極的に行っており、文化的な視点など、多彩な視野からうつ病論を展開している。



池田 学

(熊本大学大学院 生命科学研究部 神経精神医学分野)

1984年東京大学理学部卒業。88年大阪大学医学部卒業。94年兵庫県立高齢者脳機能研究センター研究員兼医長として、認知症の診療と臨床研究に従事する。96年愛媛大学医学部精神科神経科助手として赴任し、認知症性疾患の地域疫学調査とケアシステムの構築に関する研究に着手する。2000年よりケンブリッジ大学神経科に国外留学、認知症性疾患の神経心理学的研究に従事する。2007年より、現職。精神症状の神経基盤に関する画像解析、認知症の疾患別治療法の開発、MCI、認知症、老年期うつ病に関する疫学研究、神経心理学的研究に従事している。

